

教育・社会福祉専門課程「精神保健福祉学科」カリキュラム編成表

区 科 分 目	選 択 の 別 ・ 必 修	授 業 科 目	第1学年	授 業 時 数 計
			年 間 授 業 時 数	
共 通 科 目	必 修	人体の構造と機能及び疾病（講義）	30	30
		心理学理論と心理的支援（講義）	30	30
		社会理論と社会システム（講義）	30	30
		現代社会と福祉（講義）	60	60
		地域福祉の理論と方法（講義）	60	60
		社会保障（講義）	60	60
		低所得者に対する支援と生活保護制度（講義）	30	30
		福祉行財政と福祉計画（講義）	30	30
		保健医療サービス（講義）	30	30
		権利擁護と成年後見制度（講義）	30	30
		障害者に対する支援と障害者自立支援制度（講義）	30	30
専 門 科 目	必 修	精神疾患とその治療（講義）	60	60
		精神保健の課題と支援（講義）	60	60
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）（講義）	30	30
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）（講義）	30	30
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開（講義）	120	120
		精神保健福祉に関する制度とサービス（講義）	60	60
		精神障害者の生活支援システム（講義）	30	30
実 習 演 習 科 目	必 修	精神保健福祉援助演習（基礎）（演習）	30	30
		精神保健福祉援助演習（専門）（演習）	60	60
		精神保健福祉援助実習指導（実習）	90	90
		精神保健福祉援助実習（実習）	210	210
必 修 科 目 授 業 数			1,200	1,200
選 択 科 目 授 業 数				
卒 業 に 必 要 な 総 授 業 数			1,200	1,200

※学則第15条第5項に該当する者は、履修を免除する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	巡回担当者
精神保健福祉援助実習		実習	岩城小百合 吉田充恵 神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
105時間以上を2回	210時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の個別の生活状況やニーズなどについて把握し、相談支援のあり方を実践的に理解する。 ・精神保健福祉士として求められる職業倫理や法的責務について実践の場において理解を深める。 ・地域生活支援、他職種や関係機関との連携について指導を受け、チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割について理解する。 ・自己に求められる課題を把握し、相談援助職として成長し続ける能力を養う。 			
授業全体の内容の概要			
<p>実習先において、精神障害者やその関係者とかかわる中で、また精神保健医療福祉の現場の専門家より指導を受け、座学で学んだ知識の理解を深める。可能な範囲で、知識や技術を実際に活用し、精神保健福祉士として必要な資質・能力・技術を習得する。</p>			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>相談援助の専門職として、精神保健医療福祉の現場で実践できる力を身につける。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

◎前期実習中に、できる限り、以下のことを学んでおくこと。

- ・精神科病院・精神科診療所・障害福祉サービス事業所等、精神保健医療福祉の現場の理解や、それぞれ期待されている役割を実践の場で学ぶ。
- ・精神保健医療福祉の専門職の理解とチームアプローチのあり方について、実践的に理解する。
- ・精神障害者とのかかわりの中で、専門職としてのコミュニケーションのあり方について学ぶ。
- ・精神障害者とのかかわりの中で、そのおかれている現状を理解する。
また、個々の精神障害者の生活の状況や課題を知る。
- ・精神障害者本人・家族等への相談支援の現場を、可能な範囲で同席し、入院・退院・地域移行等、各ステージにおける相談支援や、各種生活問題の相談支援の実際を学ぶ。
- ・教科書等で学んだ制度などが、実際の現場でどのように利用されているか指導を受ける。
- ・デイケアや家族教室等のグループワーク場面に参加し、グループの力動を利用した支援について学ぶ。
- ・実習先の地域について理解し、
また、地域の社会資源に目を向け、他機関との連携について指導を受ける。
- ・精神保健福祉士法や倫理綱領をふまえ、精神保健福祉士として求められている資質・技能・倫理について、実践の場において指導を受ける。

◎前期実習で学んだことをふまえ、以下の事柄について理解を深める。

前期で習得できなかった部分もあわせて学ぶ。

- ・実習先の地域を理解した上で、精神科病院や障害福祉サービス事業所が果たしている役割について学ぶ。
- ・地域の他機関との連携の実際や、社会資源の活用・調整・開発について指導を受け、理解を深める。
- ・地域の関係者やボランティア等との関係性の構築と基本的なコミュニケーションについて学ぶ。
精神障害者とのかかわりの中で信頼関係を形成し、その思い・希望を聞かせていただき、生活状況の把握に努め、学生なりの支援計画を立ててみる。
- ・利用者やその関係者への権利擁護や支援について考え、地域社会における状況を把握する。
- ・組織の一員としての役割や仕事上の責任についての理解を深める。
- ・精神保健医療福祉関係機関の経営や、福祉サービスの管理運営について指導を受ける。
- ・具体的な地域社会への働きかけについて学ぶ。(アウトリーチ・ネットワーキング等)

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉援助実習指導・実習』
へるす出版

単位認定の方法及び基準

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ・実習先からの評価表・
自己評価・教員による評価 | 70% |
| ・実習総括レポート | 30% |

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉援助実習指導		講義・見学実習	岩城小百合 吉田充恵 神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
3～5時間×28回	90時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<p>精神保健福祉援助実習の意義について理解し、その事前学習や事後学習を通して、精神保健福祉士として求められる知識・技術を体得する。</p>			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む)や関係機関について、視聴覚教材や見学実習等から学ぶ。 ・実習計画の作成や実習中の記録に関する指導。 ・実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術についての指導。 ・実習体験を踏まえ、自己の課題を整理し、総合的に対応できる能力を習得させる。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1～3 オリエンテーション・精神保健福祉援助実習の意義について
- 4～6 見学実習先の事前学習、諸注意、見学後のレポート提出の説明
- 7～9 障害福祉サービス事業所の見学実習
- 10 実習先選定について
- 11 精神保健福祉の医療・福祉サービスについて(視聴覚教材)
- 12 精神保健福祉の医療・福祉サービスについての説明
- 13～15 精神科病院の見学実習
- 16 実習計画書・実習プログラムの意義と作成方法について
- 17 実践における記録の意義
- 18 実習日誌の目的・内容・書き方指導・留意点、その他実習関係書類の作成指導
- 19～21 精神保健福祉センターの見学実習
- 22 個人情報の取り扱いについて(個人情報保護法等)
- 23 専門職としての守秘義務について(精神保健福祉士法・倫理綱領)
- 24 個人情報保護についての事例検討
- 25～26 事前訪問の目的・内容・諸注意
- 27 精神障害者やその環境の理解(視聴覚教材)
- 28～30 精神保健福祉士の業務の実際について(ベテラン精神保健福祉士による講義)
- 31～33 救護施設の見学実習
- 34～35 面接(利用者とのコミュニケーション含む)と記録の指導
- 36 巡回指導について(訪問指導・スーパービジョン)
- 37 実習中の悩み・アクシデントへの対応
- 38 実習体験を踏まえた課題の整理の仕方・実習総括レポートの作成について
- 39～40 前期実習直前個別面談
- 41～43 精神保健福祉士の業務の実際について(卒業生による講義)

- 44 前期実習のふりかえり
- 45～47 実習報告会(1)
- 48～50 実習報告会(2)
- 51～52 前期実習の自己評価・教員との個別のふりかえり、後期実習先の選定
- 53～54 精神障害者家族の理解(精神障害者家族の方の講義)
- 55～56 後期実習のポイントについての説明 実習計画書・実習プログラムの作成
前期実習の経験をふまえ、後期実習先での課題達成のための方法を考える
- 57 地域生活支援について(視聴覚教材)
- 58～60 精神科病院を想定した、面接と記録・福祉サービスの活用の指導
- 61～63 当事者の理解(精神障害当事者の方の講義)
- 64～66 障害福祉サービス事業所を想定した、面接と記録・福祉サービス活用の指導
- 67～69 精神保健福祉士法や倫理綱領について(事例を用いて理解を深める)
- 70 後期実習の準備・事前指導
- 71～75 支援計画作成と他機関との連携について
- 76～77 後期実習のふりかえり
- 78～80 実習報告書作成、個別指導
- 81～85 実習報告書作成、個別指導、報告会準備
- 86～90 実習報告会

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉援助実習指導・実習』
へるす出版

単位認定の方法及び基準

出席と授業態度で評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉援助演習（専門）		演習	山本 純子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×30回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<p>精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、実現にむけた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。 ・事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>精神障害者に関わり、その困難を深く理解し、援助専門職としての自覚を持つ。各職場の現状を理解し、精神保健福祉士の具体的な活動と課題について理解する。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- | | | |
|----|------------------------------------|--------------|
| 1 | オリエンテーション・相談援助の展開過程の説明 | 面接場面のロールプレー等 |
| 2 | 生活支援事例（導入編）、GW | |
| 3 | 生活支援事例（導入編）、GW | |
| 4 | 社会的排除、GW | |
| 5 | 退院支援・地域移行事例、GW | |
| 6 | 地域生活事例、GW | |
| 7 | ひきこもり、家族支援、GW | |
| 8 | 児童虐待事例、GW | |
| 9 | スクールソーシャルワーク事例、GW | |
| 10 | アルコール依存症者支援事例、GW | |
| 11 | 認知症者支援事例、GW | |
| 12 | 就労・雇用事例、GW | |
| 13 | ホームレス事例、GW | |
| 14 | 精神科デイケア支援、GW | |
| 15 | 精神科救急事例、GW | |
| 16 | ピアサポート事例、GW | |
| 17 | 発達障害者支援事例、GW | |
| 18 | 医療観察法対象者事例、GW | |
| 19 | アウトリーチ事例、GW | |
| 20 | インテーク、アセスメント、GW | |
| 21 | ケアプラン、GW | |
| 22 | ケアプラン発表（プレゼンテーション） | |
| 23 | モニタリング、再プランニング、エヴァリエーション、GW | |
| 24 | チームアプローチとネットワーキング事例、GW | |
| 25 | 協議会の活用・調整・開発事例、GW | |
| 26 | サービス評価事例、GW | |
| 27 | 地域福祉計画事例（社会資源の活用・連携）、GW | |
| 28 | 地域福祉計画事例（社会資源の活用、連携、開発等）、プレゼンテーション | |
| 29 | 精神保健福祉援助実習 体験後の振り返り | |
| 30 | まとめ（精神保健福祉として現場で活躍するために） | |

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』
へるす出版

単位認定の方法及び基準

試験60%、出席20%、授業態度20%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉援助演習（基礎）		演習	岩城 小百合
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
3時間×10回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<p>精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得する。 専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系化立てていくことができるようになる。</p>			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・他の科目との関連性を視野に入れ、具体的な実技を用い、知識・技術を習得させる。 ・地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的相談事例について、個別・集団指導の方法を用い援助方法を習得させる。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>ソーシャルワーク実践に必要とされる基礎的な援助技術を身につける。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- | | |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ① オリエンテーション、精神障害者の理解 (DVD)
② 精神保健福祉士の価値と倫理
③ 援助関係の形成・原則 |
| 2 | ④ 利用者理解について (個人・環境)
⑤ コミュニケーション (自分の傾向、非言語的・言語的)
⑥ 基本的面接技術 (面接、電話、訪問) |
| 3 | ⑦ 記録の意義、方法
⑧ 記録 (ききとったケースを実際にフェースシートに記入) |
| 4 | ⑨ グループワークについて その意義、精神保健福祉士の役割
⑩ デイケアプログラムの作成
⑪ デイケア新規参加者に対する精神保健福祉士の説明 (ロールプレー) |
| 5 | ⑫ SSTについて、次回SST演習の説明・準備
⑬ グループに分かれ、SST演習
⑭ SST演習、ふりかえりシートに記入 (個人) |
| 6 | ⑮ グループで振り返り → 教員からの講評
⑯ コミュニティワーク、ケアマネジメントの理解 |
| 7 | ⑰ 社会資源と連携 (地域にある社会資源について調べる)
⑱ 社会資源と連携 (グループで社会資源マップ作成)
⑲ 社会資源と連携 (グループで社会資源マップ作成) |
| 8 | ⑳ 社会資源と連携 (社会資源マップ プレゼン → 教員からの講評)
㉑ 次回演習 (事例検討) の説明、事前学習分伝達
㉒ 事例検討 (情報の収集、整理、伝達技術について) |
| 9 | ㉓ 事例検討 (個人情報取り扱いと連携のあり方について)
㉔ 事例検討 (個別支援計画の作成) |
| 10 | ㉕ 修了試験
㉖ 修了試験
㉗ 地域福祉の実践 (DVD)
㉘ 修了試験解答・解説
㉙ まとめ (ケースの地域生活実践までの物語作成)
㉚ まとめ (ケースの地域生活実践までの物語作成) |

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉援助演習 (基礎・専門)』
へるす出版

単位認定の方法及び基準

試験70%、実技30%で評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神障害者の生活支援システム		講義	神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・後期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。 ・精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 ・職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。 ・行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の概念 ・精神障害者の生活の実態 ・精神障害者の生活と人権 ・精神障害者の居住支援 ・精神障害者の就労支援 ・精神障害者の生活支援システム ・市町村における相談援助 ・その他行政機関における相談援助 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>精神障害者の理解と精神障害者の地域生活を支える生活支援、居住支援、就労支援、相談援助について理解する。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1 精神障害者の特性と人としての一般性
- 2 精神障害者の生活実態
- 3 精神障害者の生活支援の理念と概要
- 4 地域生活支援における精神障害者の人権
- 5 住宅支援制度の概要・住宅支援に係わる専門職の役割と連携
- 6 住宅支援の実際
- 7 住宅支援における近年の動向と課題及び国・都道府県・市町村の役割と連携
- 8 就労支援制度の概要（障害者雇用促進法、ジョブガイダンス）
- 9 就労支援に係わる専門職の役割と連携
- 10 就労支援の実際
- 11 就労支援における近年の動向と課題
- 12 就労支援における国・都道府県・市町村との連携、ハローワークとの連携
- 13 精神障害者の自立と社会参加
- 14 生活支援の実際・ソーシャル・サポートネットワーク
- 15 行政機関における相談援助（精神保健福祉相談員、都道府県、保健所、精神保健福祉センター等）

使用テキスト・参考文献

『精神障害者の生活支援システム』
中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉に関する制度とサービス		講義	神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×30回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の相談援助活動法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。 ・精神障害者の支援に関する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。 ・精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。 ・更生保護制度と医療観察法について理解する。 ・社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉法の意義と内容 ・精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス ・精神障害者に関連する社会保障制度の概要 ・相談援助に係わる知識、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働 ・更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係 ・更生保護制度における関係機関や団体との連携 ・医療観察法の概要 ・医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割 ・社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>精神保健福祉施策の概要について、精神保健福祉の関連施策について理解する。 また、社会資源の開発に関する知識について学ぶ。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

01-02	社会保障全体から見た精神保健福祉に関する制度とサービス	
03-04	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化	
05-09	精神保健福祉法の概要	
10-11	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス1	障害者基本法
12-15	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス2	障害者総合支援法 障害福祉サービス
16-17	精神障害者等の福祉制度に概要と福祉サービス3	国、都道府県、市町村の施策
18-19	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス4	アウトリーチ支援
20	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス5	自殺対策
21-22	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス6	認知症高齢者等の支援施策
23-24	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス7	ひきこもり支援施策
25-26	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス8	発達障害者等支援施策
27	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス9	高次脳機能障害者の支援施策
28-29	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス10	障害者虐待防止施策
30	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス11	障害者差別解消施策
31	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス12	アルコール・薬物依存支援施策
32	中間まとめ・解答解説	
33	精神障害者に関する社会保障制度	社会保障制度
34-35	精神障害者に関する社会保障制度	医療保険制度
36-37	精神障害者に関する社会保障制度	介護保険制度
38-39	精神障害者に関する社会保障制度	経済的支援制度1 生活保護制度
40-41	精神障害者に関する社会保障制度	経済的支援制度2 公的年金制度
42	精神障害者に関する社会保障制度	経済的支援制度3 社会手当・経済的負担軽減
43	精神障害者に関する社会保障制度	経済的支援制度4 雇用保険
44	精神障害者に関する社会保障制度	経済的支援制度5 経済的負担軽減
45-46	相談援助に関わる組織・団体・関係機関、専門職1	行政組織・民間組織
47	相談援助に関わる組織・団体・関係機関、専門職2	サービス提供施設、インフォーマル
48-53	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係	
54-55	特別講義 一保護観察官による出張授業	
56-59	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査	
60	まとめ・解答解説	

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉に関する制度とサービス』
中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉の理論と相談援助の展開		講義	岩城 小百合
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
72回 (各回1～3時間)	120時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療の特性と精神障害者支援の基本的な考え方について理解する。 ・精神科リハビリテーションの概念と、チーム医療の中の精神保健福祉士の役割について理解する。 ・精神科リハビリテーションのプロセスと、精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識・技術・活用方法について理解する。 ・精神障害者への相談援助の過程の理解と家族問題調整及び家族支援について理解する。 ・精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と、支援体制の実際について理解する。 ・精神障害者の地域生活の実態とその環境、地域相談援助における基本的考え方を理解する。 ・地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。 ・地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療保健福祉の歴史的な流れを理解させる。 そのうえで現在の精神科病院や障害福祉サービス事業所、地域の関連機関等の状況と精神保健福祉士の役割について理解させる。 ・精神障害者や家族等の状況を理解した上で、相談援助の展開や支援体制の実際について理解させる。 ・地域を基盤とした相談援助の基本的考え方と、専門職との連携の実際について、地域包括支援の意義・展開について理解させる。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>精神科病院・障害福祉サービス事業所・地域等での相談支援やリハビリテーションについて理解し、精神保健福祉士として精神医療保健福祉の現場で相談援助を実践するための知識を身につける。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 01～03 精神保健福祉の理念と精神障害者の人権
 04～07 我が国の精神保健医療福祉の歴史と動向・理念
 08～10 精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの歴史（日本）
 11～12 精神保健福祉の現状（精神医療・地域生活支援）
 13～14 精神保健福祉の展望と精神保健福祉士の課題
 15～17 精神保健福祉士の理念と意義
 18～19 ソーシャルワークの展開過程
 20～21 ソーシャルワーク面接
 22～23 個別支援とその過程
 24～25 家族への個別支援
 26～27 事例分析
 28～32 グループを活用した支援
 33 疾病の過程・ライフサイクルと精神科リハビリテーション
 34～37 精神科リハビリテーションの概念、構成、精神保健福祉士の役割
 38～42 精神科リハビリテーションサービス（デイケア、居住支援、就労支援）
 43～45 精神科リハビリテーションにかかわる専門職
 46～51 精神科リハビリテーションサービスの実施機関、施設と関連事業
 52～58 精神科リハビリテーションの基本プロセスと展開
 59～65 精神科リハビリテーションにおける支援方法（作業療法、集団精神療法、認知行動療法）
 66～67 精神科リハビリテーションにおける支援方法（心理教育）
 68 精神科リハビリテーションにおける支援方法（チームアプローチ）
 69～70 チーム医療における精神保健福祉士の役割
 71～73 チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 74～75 地域を対象とした支援
 76～77 災害時における精神保健福祉士の役割
 78～79 スーパービジョン、コンサルテーション
 80～85 ケアマネジメント
 86～88 地域生活支援とネットワーク
 89～90 仲間による地域生活支援
 91～92 精神保健福祉ボランティアの育成と活用
 93～95 イギリスにおけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり
 96～99 アメリカにおけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり
 100～106 まとめ（精神科病院における相談支援）
 114～115 まとめ（地域の関係機関における相談支援）
 116～120 まとめ（地域生活を支援する包括的な支援と展開）

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』
 中央法規
 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』
 中央法規

単位認定の方法及び基準

試験80%、授業態度20%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		講義	吉田 充恵
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・後期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。 ・精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 ・精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ・精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的な考え方を理解する。 ・相談援助に係わる専門職の概念を学ぶ。 ・精神障害者の権利擁護の意義について理解する。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容を理解する。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士が行う相談援助の対象理解と基本的な考え方を知る。 ・相談援助に係わる専門職の役割を理解する。 ・精神保健福祉活動における他職種連携の内容を学ぶ。 			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 01～02 精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向
- 03～04 草創期の精神科ソーシャルワークと日本への導入
日本PSW協会の草創期と混乱期
- 05～06 国家資格化と拡大期
- 07～08 精神保健福祉士法について（目的、定義、義務等）
- 09～10 日本精神保健福祉士協会倫理綱領について
- 11～12 精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワーク（専門職の概念と範囲）
- 13～14 医療機関における専門職（医師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士等）
- 15～16 福祉行政・関連行政機関における専門職（保健師、精神保健福祉相談員等）
- 17～18 民間の施設・組織における専門職（施設長、社会福祉協議会、ピアサポーター等）
- 19～20 チームアプローチと多職種連携（IPW）
- 21～22 精神保健福祉士の生活支援とは
- 23～24 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割
- 25～26 メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割
- 27～28 ライフステージごとのメンタルヘルスと精神保健福祉士の役割
- 29～30 まとめ

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』
中央法規

単位認定の方法及び基準

筆記試験の結果、授業の態度、出席状況を総合的に評価して単位認定を行う。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）		講義	神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。 ・相談援助の概念と範囲、理念について理解する。 ・社会福祉士の役割と意義について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士法の理解と専門性及び専門職倫理を理解する。 ・社会福祉士の成立過程と役割及び意義について理解する。 ・ソーシャルワークの形成過程と相談援助の理念について理解する。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士の役割及び専門性について理解する。 ・社会福祉士の役割及び専門性について理解する。 ・相談援助の概念と理念について理解する。 			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

01	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士	精神保健福祉士の役割と意義（成立背景、定義、義務、専門性）
02	〃	現代社会と精神保健福祉士
03	〃	社会福祉士及び介護福祉士法の設立背景、定義、義務、専門性
04	ソーシャルワークの理念と定義・構成要素	ソーシャルワークの定義と構成要素
05	〃	国際ソーシャルワーカー連盟倫理綱領、倫理的シナリオ、国際定義
06	〃	ソーシャルワークの理念
07	〃	人間尊重・社会正義・利用者主体
08	〃	尊厳の保持・権利擁護・自立支援
09	〃	社会的包摂・ノーマライゼーション
09	〃	権利擁護・バスターディックの7原則
10	ソーシャルワーク理論と展開過程	ソーシャルワークの歴史（前史、ケースワーク論争・再統合、以降の展開）
11	〃	ソーシャルワーク理論（実践モデル、3モデル統合・ジェネラリストソーシャルワーク）
12	〃	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程（ケアマネジメント等）
13	〃	〃（マイクロ・メゾ・マクロ領域）
14	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向	
15	まとめ	

使用テキスト・参考文献

『精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』
中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神保健の課題と支援		講義	平野 正治
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×30回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康について基本的な考え方と精神保健学の役割について理解する。 ・現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ・精神保健を維持、増進するために機能している専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ・国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康とライフサイクル、精神の健康に関する要因及び精神保健の概要 ・精神保健の視点から見た、家族の課題とアプローチ ・精神保健の視点から見た、学校教育の課題とアプローチ ・精神保健の視点から見た、労働者の課題とアプローチ ・精神保健の視点から見た、現代社会の課題のアプローチ ・精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ・地域精神保健の諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 ・精神保健に関する専門職（保健師等）と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携 ・諸外国の精神保健活動の現状と対策 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士がクライアント主体の支援をするために知っておくべき、現代社会の精神保健領域の広範な知識を習得する。 ・精神保健活動の実際や課題、その中で精神保健福祉士の役割と、各専門機関、専門職種との連携について理解する。 			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

1	精神保健に関する基本的理解	
2	ライフサイクルにおける精神保健	乳幼児期における精神保健
3	〃	学童期における精神保健
4	〃	思春期における精神保健
5	〃	青年期における精神保健
6	〃	成人期における精神保健
7	〃	老年期における精神保健
8	精神保健における個別課題への取り組み	精神障害対策
9	〃	認知症対策
10	〃	アルコール関連問題対策
11	〃	薬物乱用防止対策①
12	〃	薬物乱用防止対策②
13	〃	思春期・青年期精神保健対策
14	〃	地域精神保健対策
15	〃	司法精神保健福祉対策
16	〃	緩和ケアと精神保健
17	〃	家庭における精神保健
18	〃	学校における精神保健
19	〃	職場における精神保健
20	地域精神保健の現状と課題	地域精神保健施設の概要
21	〃	関係法規・関係施策
22	〃	精神保健福祉に関する調査研究
23	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	
24	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携	国及び行政機関の役割
	〃	保健専門職の役割、
		各種学会・啓発団体の役割、
25		精神保健における連携のあり方
26	世界の精神保健	世界の精神疾患の疫学
27	〃	WHO等の国際機関の活動
28	〃	諸外国の精神保健医療の実情
29	まとめ	法律・制度改正分を中心に
30	〃	精神保健福祉士の役割や連携を中心に

使用テキスト・参考文献

『精神保健の課題と支援』 中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
精神疾患とその治療		講義	平野 正治
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×30回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 ・精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 ・精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 ・精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む） ・精神疾患の治療 ・精神科医療機関の治療構造及び専門病棟 ・精神科治療における人権擁護 ・精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割 ・精神医療と福祉及び関係機関との間における連携の重要性 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>医療・福祉の場で必要とされる精神医学的なものの見方および基本的知識の習得を目標とする。 精神医学の現代における知見と医療全般の理解を深め、障害者への正しい認識と豊かな人間性を養う一助としたい。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1 精神医学の歴史（西洋の歴史・日本の歴史）
- 2 脳の構造・神経系の発生と構成
- 3 中枢神経系、末梢神経系
- 4 精神医学とは 精神障害の成因と分類
- 5 精神疾患の診断の手順と方法 精神症状と状態像
- 6 " 身体検査と心理検査、構造化面接と操作的診断基準
- 7 代表的な精神疾患（症状性を含む器質性精神障害）
- 8 " （精神作用物質使用による精神及び行動の障害）
- 9 " （統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害）
- 10 " （気分障害）
- 11 " （神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）
- 12 " （生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群）
- 13 " （成人のパーソナリティおよび行動の障害）
- 14 " （知的障害）
- 15 " （心理的発達障害）
- 16 " （小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害）
- 17 " （神経系の疾患、てんかん含む）
- 18 精神疾患の治療（身体療法）
- 19 "（精神療法）
- 20 "（精神障害リハビリテーション）
- 21 病院精神医療の現状と課題（外来、入院、在宅）
- 22 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割
- 23 精神科救急医療
- 24 地域精神医療の展開
- 25 精神医療と福祉の連携
- 26 精神科医療機関と患者の人権
- 27 インフォームドコンセントとアドヒアランス
- 28 司法精神医学総論
- 29 司法精神医療の実際
- 30 まとめ

使用テキスト・参考文献

『精神医学－精神疾患とその治療』
中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
権利擁護と成年後見制度		講義	後藤 智
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。 ・ 成年後見制度の実際について理解する。 ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行財政法の理解を含む。）との関わり ・ 成年後見制度 ・ 日常生活自立支援事業 ・ 成年後見制度の利用支援事業 ・ 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 ・ 権利擁護活動の実際 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 成年後見制度・日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業などについて概説できること。 ・ 権利擁護にかかわる組織・団体の役割について説明できること。 ・ 権利擁護活動の展開方法を身につけることができる。 			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 1 | 相談援助活動と法（相談援助活動において想定される法律問題） |
| 2 | “（日本国憲法の基本原理） |
| 3 | “（民法） |
| 4 | “（行政法） |
| 5 | 成年後見制度（成年後見の概要） |
| 6 | “（補佐・補助、任意後見） |
| 7 | “（民法における親権や扶養） |
| 8 | “（成年後見制度の最近の動向） |
| 9 | 日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業 |
| 10 | 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（家庭裁判所、法務局、市町村） |
| 11 | “（弁護士、司法書士、社会福祉士） |
| 12 | 権利擁護活動の実際（認知症を有する者、消費者被害を受けた者） |
| 13 | “（被虐待児・者、アルコール等依存者、非行少年） |
| 14 | “（ホームレス、多問題重複ケース、障害児・者） |
| 15 | まとめ |

使用テキスト・参考文献

『権利擁護と成年後見制度』弘文堂

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保健医療サービス		講義	吉田 充恵
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動において必要となる保健医療制度や、医療保険サービスについて理解する。 ・ 医療保険サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療保険制度（診療報酬を含む）について理解を深める。 ・ 保健医療サービスの概要と専門職の役割と実際について理解する。 ・ 保健医療サービス関係者との連携と実際について理解する。 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健医療システムと対策、医療に関する法・制度の現状理解を図る。 			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1 医療保険制度の概要
- 2 医療費に関する政策動向（高額療養費制度等）
- 3 診療報酬制度の概要（在宅療養等）
- 4 診療報酬制度の概要（ターミナルケアを支援する診療報酬制度）
- 5 介護保険制度と介護補習の概要
- 6 医療施設の概要（病院、特定機能病院、回復期リハビリテーション病院）
- 7 医療施設の概要（地域医療支援病院、診療所等）
- 8 専門職の役割と実際（医師、インフォームドコンセントの意義）
- 9 専門職の役割と実際（保健師、看護師等）
- 10 専門職の役割と実際（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等の役割）
- 11 保健医療サービス関係者との連携
（医師、保健師、看護師、医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員等）
- 12 保健医療サービス関係者との連携（医療チームアプローチの方法と実際）
- 13 保健医療サービス関係者との連携（地域の社会資源について）
- 14 地域の社会資源との連携の方法と実際
- 15 他職種協働について

使用テキスト・参考文献

『保健医療サービス』中央法規

単位認定の方法及び基準

テストと出席状況により評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
低所得者に対する支援と生活保護制度		講義	吉田 充恵
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 ・相談援助活動において必要とされる生活保護制度や、生活保護制度に係る他の法制度について理解する。 ・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際 ・生活保護制度 ・生活保護制度における組織及び団体の役割と実際 ・生活保護制度における専門職の役割と実際 ・生活保護制度における他職種連携、ネットワーキングと実際 ・福祉事務所の役割と実際 ・自立支援プログラムの意義と実際 ・低所得者対策 ・低所得者への住宅政策 ・ホームレス対策 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
最終的な公的生活保障制度である公的扶助制度について理解し、実際に活かせるようにする。			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要
- 2 生活保護費と保護率の動向
- 3 生活保護法の概要
- 4 "
- 5 "
- 6 生活保護法の概要
- 7 生活保護制度における国、都道府県、市町村、ハローワークの役割
- 8 現業員の役割、査察指導員の役割、民生委員の役割
- 9 保健医療との連携、労働施策との連携、その他の施策との連携
- 10 福祉事務所の組織体系、福祉事務所の活動の実際
- 11 自立支援プログラムの目的、自立支援プログラムの作成過程と方法
- 12 自立支援プログラムの実際
- 13 生活福祉資金の概要、低所得者に対する自立支援の実際
- 14 無料定額診療制度、公営住宅
- 15 ホームレス自立支援法の概要

使用テキスト・参考文献

『低所得者に対する支援と生活保護制度』
中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		講義	神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。 ・ 障害者福祉制度の発達過程について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 ・ 障害者福祉制度の発達過程 ・ 障害者総合支援法 ・ 障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際、専門職の役割と実際 ・ 障害者総合支援法における多職種連携、ネットワークと実際 ・ 相談支援事業所の役割と実際 ・ 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ・ 発達障害者支援法、障害者基本法 ・ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律 ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・ 障害者の雇用の促進等に関する法律 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
授業及び現場体験等を通して、障害のある人への相談援助活動について理解する。			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- | | |
|----|----------------------------------------------------------------------|
| 1 | 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
障害者の福祉・介護需要及び障害者の地域移行や就労の実態
// |
| 2 | 障害者総合支援法の概要（法の目的） |
| 3 | //（障害支援区分判定・支給決定の仕組みとプロセス、財源） |
| 4 | //（障害福祉サービス、障害者支援施設） |
| 5 | //（補装具・住宅改修の種類、地域生活支援事業） |
| | //（自立支援医療、苦情解決、審査請求、最近の動向） |
| | // |
| 6 | 障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際 |
| 7 | 相談支援専門員、サービス管理責任者、居宅介護従事者の役割 |
| 8 | // |
| | 障害者総合支援法における多職種連携の方法、ネットワーキングと実際
// |
| | 相談支援事業所の組織体系及び活動の実際 |
| 9 | 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法の概要（手帳制度、法律に基づく措置等） |
| 10 | // |
| 11 | 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律・発達障害者支援法の概要
（手帳制度、措置入院、発達障害者支援センターの役割等）
// |
| 12 | 障害者基本法の概要
// |
| 13 | 医療観察法の概要
// |
| 14 | 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要
障害者の雇用の促進に関する法律の概要 |
| 15 | まとめ |

使用テキスト・参考文献

『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』
中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
社会保障		講義	清水 剛志
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
3時間×20回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 ・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。） ・社会保障の概念や対象及びその理念 ・社会保障の財源と費用 ・社会保険の社会扶助の関係 ・公的保険制度と民間保険制度の関係 ・社会保障制度の体系 ・年金保険制度の具体的内容 ・医療保険制度の具体的内容 ・諸外国における社会保障制度の概要 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>わが国の年金、雇用保険、労災保険、および介護保険の仕組みと特色を理解し、社会福祉相談援助の実践の基礎を身につける。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- | | |
|----|------------------------------------|
| 1 | 現代社会と社会保障（社会保障の理念と機能） |
| 2 | 社会保障の歴史（日本における社会保障の歴史的展開） |
| 3 | “（欧米における社会保障の歴史的展開） |
| 4 | 社会保障の体系（社会保障制度の体系、仕組み、役割、機能、給付と負担） |
| 5 | 社会保険の構造（年金保険・医療保険） |
| | “（介護保険・労働者関連の社会保険） |
| 6 | 社会扶助の構造（公的扶助・社会手当・社会福祉） |
| | 社会保障の財源と費用（社会保障給付費の推移） |
| 7 | “（社会保障の財源、社会保障と経済） |
| 8 | 年金保険制度（沿革と概要・年金保険制度をめぐる最近の動向） |
| | “（国民年金・厚生年金保険・共済年金） |
| 9 | 医療保険制度（医療保険制度の沿革と概要・健康保険と共済制度） |
| | “（国民健康保険制度・後期高齢者医療制度） |
| 10 | “（国民医療費と医療をめぐる最近の動向） |
| | 介護保険制度（介護保険制度創設の経緯） |
| 11 | “（介護保険制度の概要、介護保険制度をめぐる最近の動向） |
| | 労働保険制度（労働保険制度の沿革と概要、労働災害補償保険） |
| | “（雇用保険、労働保険制度をめぐる最近の動向） |
| 12 | 社会福祉制度（社会福祉制度の沿革と概要） |
| 13 | “（公的扶助・生活保護制度） |
| 14 | “（児童福祉・障害者福祉） |
| 15 | “（母子・寡婦福祉、高齢者福祉） |
| 16 | “（社会手当制度） |
| 17 | 社会保障と民間保険（社会保険と民間保険の関係、企業年金等） |
| 18 | “（古典的な社会保険と民間保険の比較、保険の原理・原則） |
| 19 | 社会保障が当面する課題（少子高齢化の動向） |
| | “（労働市場の変化と社会保障、少子化への取り組み） |
| 20 | 諸外国における社会保障制度（欧州の社会保障制度） |
| | “（アメリカ・東アジアの社会保障制度） |
| | “（社会保障制度の国際化） |

使用テキスト・参考文献

『社会保障論』全国社会福祉協議会

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
福祉行財政と福祉計画		講義	神通 一仁
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉行財政の実施体制について理解する。 ・福祉行財政の実際について理解する。 ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉行政の実施体制 ・福祉行財政の動向 ・福祉計画の意義と目的 ・福祉計画の主体と方法 ・福祉計画の実際 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>国、都道府県、市町村の役割と福祉行財政の仕組み、福祉計画について学び、これからの暮らし、働き方、人生設計のあり方に影響を与える福祉政策の重要性について理解する。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1 国の役割、都道府県の役割
- 2 市町村の役割
- 3 国と地方の役割、福祉の財源
- 4 福祉行政の組織及び団体の役割
- 5 "
- 6 福祉行政における専門職の役割
- 7 "
- 8 福祉行財政の動向
- 9 福祉計画の意義と目的、福祉計画における住民参加の意義、
福祉行財政と福祉計画の関係
- 10 福祉計画の主体
- 11 福祉計画の種類
- 12 福祉計画の策定過程
- 13 福祉計画の作成方法と留意点
- 14 福祉計画の評価方法
- 15 福祉計画の実際

使用テキスト・参考文献

『福祉行財政と福祉計画』中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
地域福祉の理論と方法		講義	福井 淳夫 吉田 充恵
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×30回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的考え方（人間尊重、権利養護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂を含む）について理解する。 ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ・ 地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法およびその実際について理解する。 ・ 地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価を含む）について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的考え方 ・ 地域福祉の主体と対象 ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 ・ 地域福祉の推進方法 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>今後の社会福祉の実践や政策の展開にを学び重要な地域福祉を理解し、新しい地域福祉の展開について明らかにし、実践に生かすことができるようになる。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

1	地域福祉の概念と範囲（定義）
2	〃
3	地域福祉の理念（人権尊重、権利養護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包含）
4	〃
5	〃
6	地域福祉の発達過程
7	〃
8	地域福祉における住民参加の意義
9	地域福祉におけるアウトリーチの意義
10	地域福祉の主体
11	地域福祉の対象
12	社会福祉法（地域福祉の推進）
13	〃
14	行政組織と民間組織の役割と実際（地方自治体）
15	〃（社会福祉法人、特定非営利活動法人）
16	〃（社会福祉協議会、民生・児童委員、共同募金）
17	〃（自治体、ボランティア組織、企業、生活協同組合）
18	〃
19	専門職や地域住民の役割と実際
20	〃
21	ネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）
22	〃
23	地域における社会資源の活用・調整・開発
24	〃
25	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（質的な福祉ニーズと量的な福祉ニーズ）
26	〃
27	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
28	〃
29	地域における福祉サービスの評価方法と実際（ストラクチャー評価、プロセス評価、アウトカム評価）
30	〃（福祉サービスの第三者評価事業、運営適正化委員会）

使用テキスト・参考文献

『地域福祉論』全国社会福祉協議会

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
現代社会と福祉		講義	野田 秀孝
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×30回	60時間	1年・通年	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ・ 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・ 福祉政策の課題について理解する ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割含む。）について理解する ・ 福祉政策と関連施策（教育政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 ・ 相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における福祉制度と福祉政策 ・ 福祉の原理をめぐる理論と哲学 ・ 福祉制度の発達過程 ・ 福祉施策におけるニーズと資源 ・ 福祉施策の課題 ・ 福祉施策の構成要素 ・ 福祉施策と関連施策 ・ 相談援助活動と福祉施策の関係 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>社会福祉は人々の貧困対策から生活、幸せに至るまでの広い政策とサービスで成り立つ社会、特に現代の社会を理解し、その上で福祉政策を理解する必要がある。</p> <p>さらに、福祉の理念、思想を理解し、人権とはなにかを考え、より良い福祉とは何かを学ぶ。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉の視点
- 3 社会福祉政策の理解
- 4 社会の変化と福祉
- 5 現代社会の課題
- 6 福祉と福祉政策
- 7 福祉の役割と機能
- 8 福祉の思想
- 9 福祉の哲学
- 10 社会政策とは
- 11 社会福祉政策とは
- 12 社会福祉政策発達史
- 13 現代の社会福祉政策
- 14 社会資源とは
- 15 社会福祉政策の理念
- 16 社会福祉政策の主体
- 17 社会福祉政策の手法
- 18 人権と社会福祉政策
- 19 保健医療
- 20 所得・雇用
- 21 教育・住宅
- 22 社会福祉制度論
- 23 福祉サービスの理解
- 24 利用制度について
- 25 援助活動とは
- 26 ソーシャルワークとは
- 27 欧米の福祉（イギリス）
- 28 " （アメリカ）
- 29 福祉政策の課題と展望
- 30 まとめ

使用テキスト・参考文献

『現代社会と福祉』中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
社会理論と社会システム		講義	永井 広克
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・後期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ・ 生活について理解する。 ・ 人と社会の関係について理解する。 ・ 社会問題について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会の理解 ・ 生活の理解 ・ 人と社会の関係 ・ 社会問題の理解 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>現代社会学の概念と理論について基礎的な知識、それによる現代社会の現実・問題の把握に関する基本的な認識を理解・習得する。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

1	現代社会の理解	(社会システムの概念、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	〃	(法と社会システム、法と社会規範、法と社会秩序)
3	〃	(経済と社会システム、市場・交換・労働・就業形態)
4	〃	(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化)
5	〃	(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化)
6	〃	(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、地域社会の集団・組織)
7	〃	(社会集団の概念、アソシエーション、組織の概念、官僚制)
8	生活の理解	(家族の概念、家族の構造や形態、家族の機能、世帯の概念)
9	〃	(生活の捉え方：ライフステージ、生活時間、消費、生活様式、QOL)
10	人と社会の関係	(社会関係と社会的孤立)
11	〃	(社会的行為)
12	〃	(社会的役割)
13	〃	(社会的ジレンマ)
14	社会問題の理解	(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱)
15	〃	(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除、DV、児童虐待、ハラスメント、いじめ、環境破壊)

使用テキスト・参考文献

単位認定の方法及び基準

『社会理論と社会システム』中央法規

試験70%、出席30%

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
心理学理論と心理的支援		講義	橋本 順子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
3時間×10回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学理論における人の理解とその技法について理解する。 ・人の成長・発達と心理の関係について理解する。 ・日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・心理的支援の方法と実際について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・人の心理的理解 ・人の成長・発達と心理 ・日常生活と心の健康 ・心理的支援の方法と実際 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>社会福祉の近隣領域である心理学を学ぶことにより、人間の心理機能や心理的活動を理解し、社会福祉の援助実践に役立てる。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

1		心と脳	
2		情動情緒	
3	-	欲求・動機付けと行動	4
5	-	感覚・知覚・認知	6
7	-	学習・記憶・思考	8
9	-	知能・創造性	10
11	-	人格・性格	12
13	-	集団適応 人と環境	14
15	-	発達概念	18
19	-	ストレスとストレッサー	20
21	-	心理検査の概要	26
27	-	カウンセリングの概念と範囲	28
29	-	心理療法の概要と実際	30

使用テキスト・参考文献

『心理学－心理学理論と心理的支援』
弘文堂

単位認定の方法及び基準

テストと出席状況により評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
人体の構造と機能及び疾病		講義	太田 雅也
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
2時間×15回	30時間	1年・前期	必修
授業の目的・ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 ・リハビリテーションの概要について理解する。 			
授業全体の内容の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・人の成長・発達 ・心身機能と身体構造の概要 ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要 ・健康の捉え方 ・疾病と障害の概要 ・リハビリテーションの概要 			
授業修了時の達成課題（到達目標）			
<p>人体の構造と機能、疾患について学習する。 人体の器官は互いに連携し、また生命を支えるのに必要な働きを分業している。 この授業では、それぞれの器官の働きと、その器官の発生する疾患について学習する。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・授業方法

- | | |
|----|----------------------------------------------------------------|
| 1 | 人の成長・発達と老化 |
| 2 | 身体構造と心身の機能（身体部位の名称、各器官の構造と機能） |
| 3 | 疾病の概要（生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患） |
| 4 | “（高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸疾患、消化器疾患） |
| 5 | “（肝臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患） |
| 6 | “（感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患） |
| 7 | 障害の概要（視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由） |
| 8 | “（内部障害、知的障害、発達障害、認知症） |
| 9 | “（高次脳機能障害、精神障害） |
| 10 | リハビリテーションの概要（リハビリテーションの定義、障害評価、諸段階） |
| 11 | “（リハビリテーションにかかわる専門職、
リハビリテーションの4つの側面） |
| 12 | 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
（ICIDHからICFへの変遷、心身機能と身体構造、活動、参加の概念） |
| 13 | “（背景因子、健康状態と生活機能低下の概念） |
| 14 | 健康のとらえ方（プライマリヘルスケア、人口統計、高齢化と家族） |
| 15 | “（国民健康づくり対策、感染症対策、産業保健、歯科保健） |

使用テキスト・参考文献

『人体の構造と機能及び疾病』中央法規

単位認定の方法及び基準

試験70%、出席30%